



□年 □組 番号 □名前

教材 8 - (1) ^{さいがい} 災害 (地しん) について考えよう!

写真やビデオ、新聞、体験した人の話などから思ったことを書きましょう。

- ・ とても大きなひ害があったのだと思った。多くの人が無くなったり、けがをしたりしている。
- ・ けがをした人を助けるために、多くの消防隊の人やお医者さんががんばった。
- ・ 多くの建物がこわれてしまったり、人がなくなってしまったりする地しんは本当に怖い。今、本当に地しんが起きたらあわててしまうだろう。
- ・ どうして地しんが起きるのか。地しんについていろいろ知りたい。
- ・ あんな大きな建物でもこわれてしまうなんて信じられない。地しんはすごい力を持っている。
- ・ ボランティアの人たちは、自分の仕事があるのに、ひさい者の方のために一生けん命に働いていた。
- ・ ひさい地の人たちは今までの生活ができなくなってしまっている。あれだけのひ害や悲しみがあっても、復こうをめざして一生けん命にがんばっている。



写真や新聞、ビデオなどのしりょうを見たり、お話を聞いたりして、思ったことを整理して、自分が調べてみたいことを確認しましょう。



わからないこと、調べてみたいこと、知りたいことを書きましょう。

- ・ 地しんが起きたときには、どうしたらよいか。
- ・ ふだんから準備しておくことは何か。
- ・ 地しんが起きた後、大変だったことは何か。
- ・ 地しんの起こり方や予測の仕方。 ・ 過去の地しんの大きさやひ害。
- ・ 市町村の防災設備や防災体制、ひなん場所。
- ・ 消防隊やレスキュー隊の仕事。 ・ ボランティアの人たちの活動。



調べ方は？ (どのように調べたら、知りたいことが分かるかな。)

インタビュー、インターネット、DVD、本、新聞、体験談、見学、体験など

調べる内容にあった方法を考えることは大切です。



見たり、聞いたりしたことを書きましょう。

- ・ ひさい者（死者、行方不明者、負しょう者）や建物のひ害（全かい・半かい、損害額）などが、とっても大きなものだった。多くの人が大変な目にあった。
- ・ ひなん所では、水や食料、冷暖房、トイレ、お風呂など、ふだん何気なく食べたり、使ったりしているものにも困っていた。
- ・ 過去の地しんや地形のデータから、これから起こる地しんの予測ができるようになってきた。今、起こる可能性が高いのは、東海地しんだ。
- ・ レスキュー隊や自衛隊がいろいろな道具や機械を使って、けが人を救助したり、たおれた物をどかしたりしていた。



調べた内容から、理由をしっかりとって、自分の考え完成させましょう。



思ったことや考えたことを書きましょう。

- ・ 大きな地しんが起きたら、多くの人が無くなってしまうので、ふだんから自分たちにできることを考えていくことは大切です。
- ・ ひなん所で生活している人が困っていたので、いつ地しんが起きてもだいじょうぶなように、食べ物や毛布、トイレトーパーなどを準備しておくことは大切です。
- ・ もっともっと科学を育てんさせ、地しんがいつ、どこで、どのくらいの大きさで起こるのかがわかるようにすることは、ひがいを防ぐことにつながります。
- ・ 地しんが起きてもみんなで助け合い、仲良く生活していくことは大切です。
- ・ ひさい者の方やボランティアの人たちは、ひさい地を立て直そうとしているので、ぼくらも何ができるか考えることは必要です。



新しく調べてみたいことがでてきたら、またテーマを作りましょう。



まだわからないことや、もっと調べてみたいこと

- ・ 子どもでも、遠くにいても、協力できることは何か。
- ・ 元の状きょうに戻るには、どれくらいの年月と費用がかかるのか。
- ・ 数分後に地しんが起きるといことがわかったら、どうすればいいのか。
- ・ 地しんが起きたときに、あると役立つ物は何か。

自分（自分たち）にできることは？



- ・ ひなん場所やひなん経路、家族との連らく方法などを確認しておく。
- ・ 持ち出しぶくろの中身や、たおれやすいものがないかを点検しておく。
- ・ 訓練のときから、「お・か・し・も」を絶対^{ぜったい}に守る。自分のことは自分で守る。
- ・ 自分だけよければいいのではなく、周りの人のことも考えてひなん（生活）する。特に、小さい子の面どうもみる。
- ・ ひさい地の方のために、ぼ金やボランティア活動をする。